

# 琉球大学学術リポジトリ

## 甘蔗の早害と風水害の対策

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 新垣, 真保 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/19881">http://hdl.handle.net/20.500.12000/19881</a>

# 甘蔗の旱害と風水害の対策

琉球では七月乃至九月の暑い時期、即ち人間にも農作物にも適度の降雨が必要とされる期間に降雨がとてもなく、為に人間は水不足に悩み、作物は亦著しく水分不足で旱害がひどく枯死一歩手前という状態になることが珍しくない。

又琉球における暴風の被害回数は八・九月に最も多く次いで七月・十月の順となつてゐる。従つて我々は既に暴風の危険に晒されてゐる訳である。

作物の被害は勿論人間の被害ではあるが、人間自身の直接的被害は別として、人間の作物である甘蔗の被害に就いて考え、そして甘蔗に対するそれらの災害を回避する方法又出来るだけ軽減する方法に就いて簡単に書いて見たい。

## (一) 夏の旱害には・・・

熱帯原産である甘蔗はその性質上生育期間中高温、多照、及び相当の水分を必要とする作物である。

以上の内気温と日照は人間の力では変更することは出来ないが、水分は人力で以て常に豊かに在るところから持つて来て、その欠乏してゐるところへある程度か又は施設の如何によつては充分に供給出来るのである。即ち自然による降雨は之亦人力では如何ともしがたいが、降雨少く甘蔗が旱害を蒙る場合、特に琉球では甘蔗の生育最も旺盛で水分を最も多く必要とする七・九月の暑い時期に雨量がとて少なく往々旱害を蒙る事があるので、此の時期に灌溉をするならば、被害を免るだけでなく、気温の高さと日照の強さと相俟つて著しく収量を増加することが出来る。

地下水はあるところには常に豊富に伏在し汲めども尽きぬ泉であるので、畑地の要所々々に井戸を掘り旱魃の際は汲めども尽きぬその水を以て充

分に灌溉をするならば、甘蔗は勿論の事あらゆる作物の収量の増加は蓋し驚くべきものがあろう。

勿論それには相当の資材と労力が要する訳だが政府でも大いに奨励しており補助制度もあると聞いているので、井戸を掘つて地下水灌溉を実施するか又は地上湧水(樋川)ダム、河川等の水を活用して大いに旱害に対する設備を充実してもらいたい。

乾燥地帯であり乍ら、甘蔗の単位面積当りの生産量世界の最高を誇るハワイの糖業は他にも色々要因はあるにしても主なる要因は、地下水灌溉の設備の充実により必要な時期に充分な水を甘蔗に与えているからに外ならない。

勿論甘蔗の生育期間である暑い時期迄には充分な水と共に充分な肥料特に良質の堆肥が多く施されていなければならない。尚堆肥を多く施した畑はそれだけ旱害に対しても耐える力が増して来るので一石二鳥である。

## (二) 暴風雨後の甘蔗の手入は・・・

暴風雨後の甘蔗園はその生育の程度及び被害の程度により適切な手入をしなければならぬ。

(一) 植付当時の蔗園あるいは幼蔗園に於ては暴風雨後泥土又は土砂のために苗又は芽が埋没することが多い。その際には芽掘りをして発芽と分けつを助けなければならない。即ち植溝は降雨のため畦から崩れ落ちた土や流れて来た土砂のために埋まつてしまい、その為に芽や苗が相当の厚さの泥土や土砂で覆はれて固くなり、芽の発芽と分けつ及びそれらの伸長が妨げられることが多い。それゆゑその被害を除くために土をかき分け、厚く被

いかぶさつたところは畦の上に土を掘り上げるなどして芽や苗の周囲を膨軟に保つ必要がある。

(二) 暴風雨の際折損、根離れした蔗茎は取り出し選別して苗に利用出来るのは苗に使用し他は牛馬の飼料等に用いる。

(三) 相当伸長した蔗茎の倒伏したもののは出来るだけ早目に結立て土寄せを行い根際を軽く踏みつけたりなどして直立させ再び倒れないようにしてやる。早ければ早い程蔗茎が曲ることが少ない。蔗茎は出来るだけ真直のものがよい。一旦曲つた蔗茎は収穫まで直すことはできない。そしてその後色々な作業に邪魔になる。

(四) 然し大面積に甘蔗を栽培し労力不足などのため暴風後早急に結立て土寄せすることも出来ぬまゝに二、三日良い天氣が経過した場合は倒伏した蔗茎は日光に向つて直立しようとして既に変曲してしまつてゐるし又根際の土も固くなつてゐるので、斯うなつたからには結立て土寄せで右の変曲が直るところか却つて変曲を増すことになるから結立て土寄せの必要はむしろ倒伏した其の状態で根際に軽く土寄せをなし風に揺られ根際に空いた穴も埋めて根の活着と恢復を計る方がよい。

(五) 倒伏した甘蔗園の枯葉はよく剣ぎとり蔗園の清潔を計らねばならない。そうしないと枯葉のために通風透光が妨げられねずみ及び病虫害による被害がひどくなる。

(新垣直保)

発行所 琉球大学農家政学部

発行人 島袋俊一

印刷 沖繩タイムス社

指令第一九八〇号

一九五八年八月二十五日印刷

一九五八年九月一日発行